

平成29年度 第4回 東近江市市民協働推進委員会 会議録

◆開催日時 平成30年2月22日(木) 午後7:00～9:00

◆開催場所 東近江市市役所新館 311会議室

◆出席者

市民協働推進委員 深尾昌峰、森井源藏、細居悦子、森下瑠美、築山清美、大林恵子、
横田真也、大橋正徳、板倉元

(欠席 太田裕子、北井香、荷宮将義、藤澤彰祐、楠神渉、小倉昌和)

事務局 まちづくり協働課 曾羽、久保、村井

(傍聴者:0人)

◆議事

- 1 市民協働推進計画の進捗管理と検証・評価の方法の検討について④
- 2 「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞の今後の展開について

◆会議録

開会

【事務局より開会の挨拶】

(課長挨拶)

皆さま、こんばんは。第4回目の市民協働推進委員会に御出席いただき、ありがとうございます。前回1月25日に開催予定でしたが雪が降ったため急遽日程を変更させていただきました。市内では之による大きな被害もなく安心しました。

本日もよろしくお願ひします。

【委員長より挨拶】

皆さんこんばんは。午前中東京の会議に出席したのですが、東近江市の「まちのわ」の話が出てきてびっくりしました。今日の議題である評価についてもそうですが、他のところがやっていないことをさらっとやっけて、この委員会からすごいことを始めているという、他のまちからするとうらやましく見えることもたくさんあって、皆さんと議論をしながら生み出せていることは素敵なことだと思っています。

皆さんから前回の宿題としてシートの意見をたくさんいただき、より良いシートになっております。今日も綺麗譚のない議論をしていただき、評価の方法としてのシートをある程度固めたいと思っています。

では、前回からの経緯も含めて、事務局から振り返りと説明をお願いします。

【市民協働推進計画の進捗管理と検証・評価の方法の検討について④】

・資料1(前回の振り返り、意見)、資料2(検証・評価シートのサンプル案)に基づき事務局より説明

(委員長)

皆さん方からいただいた意見をもとに、シートをブラッシュアップしてもらいました。いかがでしょうか。

(委員)

全体的に非常に見やすくなったなと思います。達成度の星マークはかわいらしいのですが、パーセンテージの数字の方が分かりやすいのではないかなと思いました。

(委員長)

星3つを60%と言うか、少し曖昧なニュアンスがありますが皆さんどうでしょうか。分かりやすい部分や曖昧さ、視覚的な見やすさなど、どちらもありだと思います。

(委員)

数字は分かりやすいと思いますが、ホテルやレストランで五つ星、三つ星という感覚的なところがあって、柔らかい気もします。

(委員)

数字にすると会社のような堅さや、救いがないときがあるかなと思います。星のままの方が、星3つから4つにと、もう少しがんばろうという気も起きてくる。

(委員長)

この評価シートは改善支援や応援していくためのもので、より協働を促していくという意味でいくと、柔らかい星であるからこそその効果もあるのかもしれないね。

また、このシートがどういう使われ方で何のためかということ、改善支援ということと、行政事業全体への波及効果があると思います。すぐには変わりませんが、アウトカムを意識し始めるというのは大変です。本来は、1つ1つの事業をみんなが意義や成果についてアウトカムを意識しながら考えべきなのですが、今はそうではありません。協働推進計画でやることの意味は、他の行政事業も協働型でやろうとか、市民にきちんと伝えていこうとか、アウトカムを意識して成果を問うていくなど、評価のあり方を行政全体の事業に向けて提起していくということだと思います。だからといってすぐに全ての事業でこのような評価をするのは無理ですが、少しずつ実績を積み上げてブラッシュアップしたり、協力してくれる人が増えるなどの効果がこの評価を通じて出てくると、こういった評価の方が今までのやり方よりも良いということが証明できて、行政やまちの文化が変わっていくと思います。また、実際に使うという視点から見ると、評価シートを見て協力するといったきっかけになるなど、次の呼び水になるようなことがあるのかなと感じました。

(委員)

全体的にこれは誰のためなのかなということ、まったく知らない事業はどこで誰が何をしているのか分からなくて協力も何もできないなと思いました。協働という視点で、団体や市民の方が見られるのであれば、やっている場所や内容などがシートではなくて別紙にでも記載されていれば協力していただきやすいのかなと感じました。

(委員長)

行政的な整理であればシートに記載しているような内容でも構いませんが、市民に向けてという視点いくと、ある意味で広報的な知ってもらうための情報をリンクでつけるなどして実態が分かる方がつながるきっかけになると思います。良いアイデアですね。

(委員)

2-3事業概要の項目がもう少し増えても良いのではないのでしょうか。

(委員長)

このシートが協働を促したり、改善という視点でいうと困っている・改善したいという点

が書かれていれば、見た人の中から協力する人が出てきたり、参加やコミュニケーションのツールになっていくのだと思います。リンクをつけたり、写真を貼るだけでも違ってきます。

「何のためか」というのは、事業をより良くしていくしていくためと、協働を促すためだということで、見せ方や伝え方は工夫しましょう。これを見た人が発信できたり、関係を作っていけるようなものになるといいですね。

(委員)

評価を見て面白いと思う人もいると思います。サンプルシートに記載している、ええよりやSOYORIを楽しそうだなと思っても、どうやって参加すればいいか分からなかったの、どこでやってるか、どこに連絡すればいいかということが載っているとアクションが起こせると思います。

(委員長)

せっかくやるのであれば、そうやってアクションを起こすような使い方をしてくれる人が出てくるといいですね。今までのやり方であれば、このシートをそのまま公表するだけで終わっていたのが、このような展開になるということが素晴らしいです。

(委員)

この評価シートは誰が書いて誰に見ていただくのか、今後どのように活用していくのかというところがもやもやしているのですが。

(委員長)

整理をすると、今までの進捗管理・評価はできているかどうかの○×だったので、今議論をして作ってきている評価シートの意味合いは御理解いただけると思います。これまでの評価は、事務局が作成をして確認をする、今できていない事業を来年度予算をつけて実施するための資料という状態で、ここから脱却しましょう。

進捗管理をする主体についてですが、市民に対して発表したり、行政の中でチェックをしたり、より良くしていくためにとりまとめるという責任は、この委員会が負っているということが1点です。

じゃあここまでせっかく作るのだったらこんなことにも使えるよねというのが、今出てきている、ある意味欲張りな部分です。これまでの評価であれば何も出てこなかったイメージが、今作成しようとしている評価シートで様々な意見や議論が出てきています。一度とりまとめて、もっと知らせると関わられるようなきっかけになったり、いろんな人に問いかける材料にもなったりすることが見えてくれば、そういう使い方を考えればいいと思います。これまではホームページに掲載して終わっていたのが、この評価シートをベースに、より協働を促したり、より多くの人々の参加を促したりするということができるイメージできれば、もっと積極的に押し出していかうとか、改善欄の困りごとだけを抜き出して一度集まってみてはどうかとか、どう活用するかということは次の話で出てくる。この評価シートがそういった使われ方をすれば大成功ですね。ですので、まずは使われる評価シート、使われることで事業がより良くなって、結果的に市民の利益が高まるような評価シートを作成することが目標です。どう使うかというところは、この中で決め打ちするのではなくていろんな議論をしてもらえればいいかなと思います。

(委員)

感想ですが、非常に新しい分野に踏み込んでるなと感じました。通常こういった評価は行

政の無駄遣いをチェックするのに行政に対して行われるのですが、この評価は参加する人や実施主体に改善を求めるのはもちろんのこと、市民のみなさんにも求めている気がして、非常に未知で難しいなと思いました。こういう評価はなかなかないですね。

(委員長)

結局「まちのこと」だよねという思想がないと、役所ややってる人だけを責めてしまう。じゃあどうやったらみんなが協力し合えるかということが少しでも出てくれば、そういった文化が少しでも起こればと思います。みんなで良くしていこうというトーンをどう出していくかという部分では、見せ方を工夫しないと。市民が考えるきっかけにするという隠れた目標もあるので、協働の評価という名前を借りてお互いの文化を刺激し合う。そういうことが見えてきた議論になっていますので、このこと自体がすごいことだと思います。

(委員)

シート左端の取組名は、該当するものを事務局があげるのでしょうか。計画・実行のところは事務局で埋めていただいて、評価・改善はこの委員会で検討するという話でしたが、私たちは事業にほとんど関わっていないので、第三者として評価すればいいのでしょうか。

(委員長)

当事者と第三者が一緒に行うのが一番いいのだと思います。第三者的な意見が必ずしも正しいわけではないですが、ヒアリングをするなどのプロセスの中で、第三者的な眼差しも必要だと思います。この委員会は第三者的な眼差しで関わりますが、本当の改善支援につなげようとする現場の声も大事なので、そのコミュニケーションのシートにもなっていくのだと思います。実際にやってみないと分からないので、今年度はこのシートでやってみて、やりながら考えたいと思います。

(委員)

このシートをもって、私たちがヒアリングに行くということでしょうか。参加した人には分かるけれど、第三者の意見を聞こうと思うとなかなか難しいのではないのでしょうか。

(委員長)

ここに出てくる資料（アンケートや実施結果）を共有して、そういった素材で評価しないといけないと思います。本当にそれでいいのかという眼差しも持っていて、参加しないといけないといった意見も出てくるかもしれませんが、今年度に関してはこのようにしていきたいと思います。

(委員)

地域担当職員の評価のところでもまち協とのアンケートと記載されていて、制度全体としての目的は分かっていますが、地域担当職員は個人で動いているので、何を1年間取り組もうとしているのかを共有しないと評価できないのではないのでしょうか。個人でなくてもチームでもいいので、地域の課題は何なのか、何をしようとしているのかということをもまち協側と議論して共有しておかないとアンケートできないのではないのでしょうか。

(委員長)

逆に言えば、そういうことが課題として挙がってくるということが大事なんです。改善の部分に、「まち協と職員の間で目標や課題についてみんなで議論する場が必要で、それを測定するための指標を設定する」ということが挙がってくる。お話いただいたようなことが課題に挙がってくるようにするにはどうすればいいのか。ニワトリが先か卵が先かというよう

な話であることは事実です。アンケートで評価するというときに、課題などが見えていないと難しいということですね。最初は、「これでは評価できない」という意見があってもいいと思います。じゃあどうすれば評価できるのか、どうしていけば改善につながるのかというところにつながっていくと思います。

(委員)

一番初めにシートを見せていただいたときに、コンパクトすぎて無理があるのではという印象でしたが、上手くいろんなことを入れられたと思いました。今作っているのは完全版だと思うのですが、それを作るまでの議論も当然あるわけです。そこで、議論をするためのサブシート、どういう視点で議論すれば良いのか、そこで出てきた課題のこの部分がシートに載っているということが分かるような仕組みを作れるような気がします。ウェブで公開されるのがこのシートだけでも、このような議論がありましたというリンクができれば、振り返るという展開もできるのではないかと思います。実際、これだけのシートで全てのことを評価するということはできないと思うので、そういう意味では隠れた部分をどのように出していけるかということシートをの形として考えられないか。プロセスが見えると、一般住民の方が見られても、分かりやすいかなと思います。

(委員長)

見せていく、伝えていくという部分でどういうものを用意していけば、本当に改善支援のための評価ツールとして、そして市民に知らせていくツールとして成り立っていくのか考えていきたいと思います。また今の御意見には、評価ツールキットとして広げていこうとか多くの事業でやろうとするときには必要だという意味合いもあります。キットとして考えると、やり方や道筋がデザインされているとやりやすくなることもあるのかもしれませんが、非常に有益な指摘だと思いますが、どこまでやるかというのは、手間とオープンする範囲の問題もありますので継続的に考えていきたいと思います。

みなさん議論していただいたように、評価というのは、攻撃や指摘をするものではなく、より良くなっていくと同時に市民に知らせていく、参加や協働を促していくということですね。もしかすると評価や進捗管理ではないのかもしれませんが。新たな名前が必要なかもしれませんが。しかし、我々としては事業の進捗評価という枠組みで協働型でやっていこうと、結果としては壮大な取組になりました。この委員会では協働を促していくということが前提にありますから、こういう議論になったということは素晴らしいことだと思います。

あとは、手間の問題ですね。今のような議論やこの評価によって超えていけるものであったり、みんなが元気になるというふうに変わっていくといいですね。この評価をやるために事務作業が増えるだけだったら何の意味もない。何の広がりも深まりもないのであれば無駄ですので、これをどう使うかという議論は継続的に考えていきたいと思います。

使い方の議論は今後もしていきたいと思いますが、今日はシートとしてこの形で良いかという合意をいただきたいと思いますが、もしこれで良ければ、Plan・Doの部分は事務局で埋めて、Check・Actionのところを皆さんの宿題として埋めてみると。その埋めたものをみんなでもう一度議論ができればと思うのですが、いかがでしょうか。先ほど事業概要の部分ももう少し豊かであればという意見がありましたので、そこは工夫しましょう。では、これで一度やってみたいと思います。

(事務局)

今年度評価をする3事業について、3月上旬に Plan・Do を埋めたシートを送りますので、Check・Action を埋めて返送していただいて、それをまとめて次回の委員会で議論したいと思います。

(委員長)

もう一度議論するので、完璧を求めなくても良いです。やってみて分かることや気づくことも大切ですので、とりあえずやってみましょう。議論していただいたように、いろんなものを大きく変えていくきっかけになる評価だと思います。ぜひ良い形で進めていければと思いますのでよろしくをお願いします。

【「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞の今後の展開について】

・パワーポイント資料（今年度のふりかえり）、資料4に基づき事務局より説明

(委員長)

今年度の取組と3年間の総括をしていただきました。特に今年度は、中学生の参加というのが非常に素晴らしい取組だったと思います。

学校の先生にも喜んでいただきましたが、何よりも協働推進計画の中でも若い世代へのまちづくりへの参加や、まちのことを知ってもらうきっかけづくりということはどこのまちでも悩んでいるところですが、自分たちで賞を選ぶというプロセスの中でまちのことを考えたり知ってもらうことができたことはよかったと思います。このように3年間続けてきました。先ほどのシートに落とし込むことをイメージしながら、みなさん振り返っていただいて、反省点や良いところも自由に御意見いただければと思います。

(委員)

中学生の賞というのはどんな結果だったのでしょうか。中学生ならではの意見や視点で選んでくれたのでしょうか。

*事務局から中学生の賞の名前、審査のや紹介

市民投票の数というのは、この3年間でどうだったのでしょうか。審査の中で市民投票は2人分でカウントされてるんですが、市民の期待や認知度は上がっているのか下がっているのかどうでしょうか。

*事務局から3年間の市民投票数について説明

(委員長)

どちらも広がり方やきっかけという視点では実施した意味があると思います。そして、どうやって広げていくか、どうやったらよりさりげなく投票してもらえるかという議論ももちろんあると思います。

(委員)

何年続けるかというところですが、応募者は永久に増えていくのでしょうか。

(委員)

初年度はいろんなところに声をかけて集めたので、非常に多く集まりました。2年目3年目は数が減ってはいますが、ある意味まともな数字なのかなと思います。

(事務局)

協働大賞があるということを知らない人がまだまだたくさんおられて、非常に良い取組を

されていても、この土台に載っていないものもあります。また、自ら応募をするというのなかなかですが、声をかけると手を挙げてくださるところもあります。また、協働という言葉から「どこかと連携していないといけないという縛り」をイメージされると、実際は協働の取組でも遠慮される場合もあります。

(委員)

地域じゃないと知らない活動もたくさんあると思うので、各地域のまちづくり協議会さんに推薦してもらおうというのも良いですね。

(委員)

「協働」という漢字を使うと、行政と民間、行政と市民活動といったイメージで、行政と絡んでいるという使われ方をよくするので、行政と連携していないので自分の活動は協働ではないと意識される場合もあるのかもしれない。

(委員)

名前は一度見直しても良いですね。最近では「協働」という言葉をあまり使わずに、「協総」や「コラボレーション」といった話が比較的多くなってきました。「協働」という言葉は、日本では行政用語として発達してきたのでそういった行政との連携といったニュアンスがあると思います。戦略的に声をかけていくことも必要ですし、例えば工場でもいろんなことをまちづくりに絡めながら実施されているので、企業と地域といった軸で良い取組を紹介してもらおうなど、掘り下げをしていくと良いですね。

(事務局)

12月議会で、市民活動を表彰したり検証するような場が必要という質問があり、協働大賞を紹介しました。どちらかといえば自治会の活動を顕彰してはといった内容でしたが、市民活動を表彰する唯一のものでし、もちろん地縁の活動も対象になるので、そういった広がりをするといういいなと思います。

(委員長)

自治会の部門を作っても良いですね。もっと小さな単位で住民達がみんなでやっているような取組がエントリーできるような形だと、広がりが出てきますね。議員の方としては地域を褒めてほしいという思いがあると思いますし、協働大賞を広げていくということにもなりますよね。地域の人たちに情報が届き始めると、他のことも巻き込んでいけますし、良いアイデアだと思います。

(事務局)

地域での活動が停滞しつつあるので、全市的に盛り上げるような場も必要ではないかと。

(委員長)

協働大賞を始めたときの議論にあがっていたのですが、裏のコンセプトは地域をもっと褒めようということでした。みんなが元気になって、みんなに知ってもらえるのであればいいねということです。「協働」という言葉の有り様やたてつけ方など、今の議論をふまえて考える必要があるのかもしれないね。

(委員)

広がっていくことは非常に良いことなのですが、審査する件数としては20事例くらいが限界で、1年目の67件もあると日程的に難しいです。多いのは非常にありがたいのですが、全てに目を通して点数をつけるのは大変です。

(委員長)

無理せずに広がっていくような感じや、件数が多くなるとすれば、物理的に審査できるような工夫も必要かと思います。

(委員)

中学生はそれぞれ賞の名前をつけてもらっているのですが、中学生らしい名前でありながら当を得たものばかりでいいなと思いました。

(委員)

このまま続けていても応募はあるということでしょうか。

(事務局)

継続すれば少なくなる傾向とは思いますが。

(委員)

市民活動と自覚していない人達にどう伝えるか。例えば、駅でダンスしている若い人達が小学生にダンスを教えに行ったという話を聞いたことがあります。それは、小学生がダンスを見てカッコいいなと盛り上がったのをきっかけに教えるようになったそうですが、本人達にとってみれば単に好きなダンスをしているだけです。この活動を誰かが拾い上げると、まちとの関係やまちのことを意識し始めますよね。何らかの働きかけがないと、そういうものは出てこないの、声かけをしたり探したりする人は必要だと思います。

(委員)

では「協働」という言葉が難しく、どんな人でも手を挙げられそうな名前を考えられると良いですね。

(委員)

協賛についてですが、一度協賛していただいた事業所は自動的に継続されていくのでしょうか。それとも毎年事務局がお願いに行っているのでしょうか。

(事務局)

前年度協賛していただいた事業所や顔見知りのお店などに、協働大賞を知ってもらいたいという想いもあってお話をしに行っています。

(委員)

今年の事例にあった赤い羽根共同募金のように、協賛をしたことをPRできるような仕組みもあると、自ら手を挙げて協賛をしてくださったり、それを見ることで知ってもらうきっかけになると思います。また、つながりや関係性を感じ取ってもらえるのではないのでしょうか。協賛していること自体がある意味協働ですよ。

(事務局)

今年は受賞団体、賞の名前、協賛事業所名、協賛内容を掲載したポスターを作成して、現在お礼を兼ねて配布しています。このような取組も大事なことなのでしっかりとやっていきたいです。

(委員長)

どこかの時点で協賛している事業所を褒める、例えば5年の節目で表彰状や感謝状を贈るといったこともいいですね。協賛のお店シールを作って、何年かしたら金色になるとか。

(委員)

市民参加で楽しみながら続けていけると良いですね。

(委員長)

発展的な方向性の議論が多く、受賞された方々の満足度も高くなっていますし、今回中学生の眼差しが非常に大人達を元気づけていると思います。今の意見も含めて、評価シートに書いていただいて、継続的に進めていきましょう。また、行政的にも地域を褒める機会があまりない中で、自治会や町内会ベースでの様々な協働を促していくという文脈も必要ですし、自分たちだけで何かをやるということに限界を感じはじめてきているので、他の資源を使ってやっておられることを拾い上げていくことで、様々な活動を褒めることができるとか、いろんなやり方、言い方ができると思います。

今日の議論では広がりや深みを持たせられるのではないかとということや、協賛をいただいている方へのフィードバックの仕方など、多様な観点からの御意見をいただきました。前向きな御意見が多く、来年度以降の取組に良い形で展開できるように総括させていただきます。

【事務連絡】

①セミナーなどの御案内

- ・ 2月27日 三方よし基金セミナー〈遺贈寄付〉
- ・ 3月 1日 コミュニティビジネスセミナー〈寄付キャンペーン〉
- ・ 3月 7日 地域創生講座「誰もが住み続けたい地域を創る」
- ・ 3月14日 まちのわ会議「"働きたい"をつなげる地域の充実したネットワークづくり」

②委員の任期2年が3月末で満了。公募委員については3月から募集予定。

③次回の委員会日程について

3月22日(木)午後4時から開催。詳細については後日連絡する。

閉会